

## 本日の研修で気づいたことについてご記入ください。

病気の理解をし、本人主体で考えていくことの大切さを知りました。

認知症についての知識がほとんどなく、本日取り上げたレビー小体型については全く知らなかったので、グループワークでいろいろと教えてもらい勉強になりました。

専門性というところで私は何か一つでも持たないと改めて思いました。

「本人の視点」について改めて考えたいと感じました。

同じ課題について職場でも一度研修会を行ったことがあるが、またこういう場面で行うと違った意見、視点が見え、とても参考になりました。

利用者さんの立場に立って考えることが大切だと思いました。

自分達は介護・福祉のプロである。プロの見方（アセスメント）をしっかり行えるよう努力したいと思います。

病気の理解をし、本人主体で考えていくことの大切さを知りました。

病気の理解の重要性、本人の立場に立つ重要性について改めて考えさせられました。

「本人の都合で考えていく」視点を常に忘れずにいたい。

グループワークの大切さ、広い視野を持つ必要性、知識と経験など再確認させていただくことができました。

誓めること、認めること、意識して行っていきたいと思います。

常日頃より考える視点を意識していくことを再認識させていただきました。専門性をみがくこと「利用者の目線」に立ちきれずに、支援者、介護者側の目線になりがちだったことにも気づかせていただける良い研修会でした。職場でも活用させていただきます。ありがとうございました。

専門職としての関りで、関わろう、質問しようとせずに黙って見ている寄りそい方もあるということがわかり新鮮でした。

自分が専門職としての力（知識）がなさ過ぎて、ついていくのがやっとでした。でも、本人の立場に立ってみていくという考え方方が広がっていって、私たちが介護を受ける時には本当に本人支援になっているように頑張りたいと思いました。

言葉の理解が出来ない人には、黙ってご本人の行動を見守ることや認知症の人に質問した時、考えて返事を返すまでに時間がかかるので、返事を返すまで待っていてもらいたい。返事をする前に代わりに返事をされるのが一番嫌というのが印象に残りました。3時間でしたが、とても短く感じました。ありがとうございました。頑張りたいと思います。

本人がどれだけ大変なのかを考えることが大切ということがよくわかりました。そのためにも障害を理解していくかなければと思いました。また、良い関係性を築いていくこと、今後の支援の中で意識していきたいと思います。

現場の困り感をどう考えるのか、どこの視点から考えるのかを改めて考えさせられました。主に、利用者におきかえて考える現場の雰囲気づくりにつとめたいと思いました。

本人のことを考えた対応が大切だということがよくわかりました。スタッフの対応の仕方によって当事者の様子が大きく変わることで、よく考えながら対応・支援していかなければと思いました。また、グループディスカッションが多く、同じような現場で働いている方たちの声を聞くことができてとても良かったと思います。ありがとうございました。

高齢者の分野の話でしたが、障害者においても考えは一緒なんだと思いました。支援をしていて困ったことがあるということは、本人がより困っているということだと自覚して、今後にいかしたいと思います。ありがとうございました。

支援者側、余裕が必要。質問攻めにしない。一番心に残りました。前向きになるというよりも自分のダメさ加減を実感しました。掘り下げて考えるクセをつけたいです。

最初は苦しいグループワーク（自分の不足していた部分をつかれるので）でしたが、自分が今までの経験から何となくやっていたところを、きちんと根拠に基づき対応していく事の必要性を感じました。困った時は資料を見直しながらやっていきたいと思います。ありがとうございました。

利用者の持っている病気をよく知ることで、ストレスにならない、負担にならないようなサービスや対応を提供していくようにしたい。利用者の持っている病気を知ることで、よりよい理解ができるようにしていきたいと思います。ありがとうございました。

経験だけでなく勉強（知識）が大切です。職場全体が本人中心となるようにしていきたいです。

講師は「専門職だからわかりますよね。」と何度も話されて、理解できない自分は知識の無さを痛感した。利用者が困っていることは分かっているけど、職員が困っている為、どう○○いいか？どういう考えが施設にはあります。先生の話し方が歯切れ良く分かりやすかったです。頑張ります。

高齢者のケースでのグループワークで、高齢者の専門知識のない中で「本人は周りを困らせるために行っているのではなく、一番本人が困っている」その本人の気持ちを考えることが大事と確認できました。本人が何が大変で何に困っているかがわかると、支援の工夫にもつながると思いました。

疾患についての基礎知識の学習不足を感じました。実践できるように学習をしたいと思います。

利用者さんの姿をしっかりとみる。背景や生育歴など、見えない所までも良く見る必要性を実感しました。また、関係機関や他の人たちと協力やアドバイス等、受けながらより良い支援をさぐる方策を教えていただいたように思います。ありがとうございました。

本人を中心に支援していくこと、忘れそうになっているなあと反省します。本人の大変さに寄り添い、周囲の大変さも受け止めながら、また、前を向いてやっていこうと思います。ありがとうございました。

専門職としての認知症などに対する知識不足を痛感しました。ある病名に対してそれを決め付けてしまう危険性や可能性があるという事にきをつけ、今後の業務にいかしていきたいと思いました。

事例を通して病気を理解したり生活像を理解していくことから本当にそうなのか・・・ということに踏み込めると気づきました。もう一度、利用者さんそれぞれの困っていることに気づき、どうしたらよいのかを見直していきたいと感じました。自分の都合で物事を考えないこと、大切にしていきたいと思います。

事例が3つ（紹介していただいたもの）それぞれの特徴があり、とても良かったと思います。G Hのケアマネしておりますがホームに帰り、認知症の勉強会に使わせていただきたいと思います。

長野の方はご本人中心に考えられる方が多いと感じました。そして、普通に良い所を良いねと言えるように意識したいと思いました。

どうして、その人がそのような行動をとっているのか。みなければいけない部分はたくさんあるんだと思いました。

認知症の事例について、自分がやってきた対応が正しかったと再確認できたのと、新たな気付きも沢山得ることができました。利用者の立場に立っているつもりが、実はスタッフの都合優先になっていたという対応を過去にも沢山してしまったのでは・・・と。今までを振り返る良い機会ではありました。グループワークも大変和やかで楽しくできました。

本人を1つずつバラして考えることにより問題解決につながることを改めて理解した。プロとして働いている自覚を持つことの大切さ、専門職としての立場で考えていかなければならぬと感じた。今日の気付きをわすれないように、まとめて自分の理解を深めていこうと感じた。ありがとうございました。

参加した他の方の考えを知ることができた。いろいろな視点から考察する大切さを学んだ。事例を通して考える経験を多く積み、力をつけていきたい。

困っているのは利用者本人であり、本人の都合で物事を考えられる専門職が大切なんだとあらためて感じました。

前回もそうだが、疾患を正しく理解することの大切さを感じた。また、ケアマネからショート依頼する際、ADLや内服薬等の情報は伝えるが、その人の生活歴を伝えることも必要なのはという声もあった。「その人を知る」「その人が何に困っているのか」本人の立場に立って考えていくことの大切さを改めて感じた。一つ一つひも解いて考えていくことが普段は出来ていないので、いい機会になりました。ありがとうございました。

グループワークについて、他の方の色々な意見を聞けて勉強になりました。

本人中心に、本人の特性障害の理解をし、プロとして実践するようにしたいと思います。

今回の事例では文面から掘り起こしてみんなで良い対応を考えることを繰り返したことで、本人の視点で考えることを、本人がどう困っているか見る、見方が変わると改めて勉強させていただきました。少し頭を軽く（凝り固まった考えを捨てる）して対応するには気持ちの余裕・ゆとりも必要と感じました。ありがとうございました。

日々、相談業務に携わっています。困難としている原因は何なのか、困っていることは何なのかをしっかり見極めながら行っていきたいと思います。大変参考になりました。仲間に伝えています。専門性とは何なのか、しっかり見極めて対応して行っていきたいと思います。

大変なのは本人なのだということを皆で共有したい。誰も悪者にならずに本人に想いを共有、本人の困り感も共有できるようにしたい。それぞれの気持ちを受け止めて、良いところを認め合い、たたえあいができる関係づくりができるようにしていきたい。

本人を中心とした支援を考えようとしていても、やはり振り返るとまだまだ本人のことを見ていません自分がいたなど感じました。対人関係についてはほめるという当たり前のことが大切なんだということを改めて気付かされました。

本人主体の支援と研修を通じて痛感しています。もちろんAさんとOさんの事例を比較すれば、Oさんの支援が専門的とわかるのです。でも実際、自分の現場を振り返ると、Aさんみたいな対応をしているなど感じるところもあるのが事実です。また、「本人主体」支援には専門職としては疾患、薬、等々背景にある情報をしらなければプロの支援とは言えません。これからも学習していきたいと思います。